

# ジェフリー・ディーヴァーが恋した新ヒロインジョー・ベケットって!?

日本人にも馴染みのゴールデンゲート・ブリッジ。  
プロアメフト選手のサザンが決死の覚悟でここに赴き……。



ハロ・アルトのアーケード。  
ジョーがキャリー・ハーディ  
ングの元夫、グレゴリー・ハ  
ーディングと会った場所。写  
真の人物はジョー、じゃなく  
てメグ・ガーディナー。

## ポイント1 生息地はサンフランシスコ

アメリカ西海岸でも随一の文化・教養レベルの高さを感じさせる街、  
サンフランシスコ。ジョー・ベケットは坂道の多いこの街に住んで  
います。メグ・ガーディナーも大好きというこの街を覗いてみましょう。  
(写真はwww.meggardiner.comより)



ジョーの家の近く、  
ロンバード・ストリ  
ート。ジョーは「ロ  
シアン・ヒル」と  
いうエリアに住ん  
ている。



ジョーの家の境界  
を走る「ハウエル  
〜マーケット」線  
のカーブ〜カー  
坂道が多い!

## ポイント2 なんちゃってジャパニーズ・カルチャー

ジョーは祖母が日本人、祖父がエジプト人、  
親はアイリッシュという、一体どうやって家系図を  
描けばいいんだか悩むようなバックグラウンド。  
そんななか、本書でも頻繁に登場するのがジョーの生活に  
入り込んだ「日本文化」。私たちからみたら、どうにも  
“なんちゃって度”が高いのだけど、これもまたご愛嬌。  
逆にジョーに親しみが湧いてくる!?  
そんな彼女のなんちゃってジャパニーズ・カルチャーを  
挙げてみましょう。

### 徳川時代の刀

祖母の形見。護身用に置いている。  
怪しい者に対して本当に振り回しちゃうからコワイ。

### 一杯のうどん

心身ともに疲弊しきったときにジョーが食べたくなるもの。  
まあ、わからないでもないけど……。

### ガウンがわりのキモノ

浅草あたりの土産屋さんに外国人観光客が喜びそうな、  
それらしきものが売られています……ね。

ケイ・スカーベッタは死体を解剖し、テンペランス・ブレナンは骨から死の真相を探る。死人が決して  
口では語れない真実を、様々な手法で探る専門家たち。本書のヒロイン、ジョー・ベケットは  
死者の生前の生活、人間関係、精神状態……。  
あらゆる証言やデータから“心理学的剖検 (psychological autopsy)”を試みる司法精神科医です。  
対象とする相手が無口なせい(無口で当然ですが)、ジョーもどちらかといえばものごとを外には  
出さず、ふつつつと胸の内にたぎらせるタイプ。著者メグ・ガーディナーがエドガー賞を受賞した  
シリーズのヒロイン、エヴァン・ディレイニーとはかなりキャラが異なります。ジェフリー・ディーヴァーが  
惚れ込んだジョー・ベケットとはどんな人間か? 鍵となるポイントをご紹介します!

## ポイント3

### 恵まれた人間関係

ジョーの魅力を引き立てるのが、  
彼女のまわりの超個性的な  
キャラクターたち。  
ディーヴァーも「ガーディナーの  
登場人物たちはひとり残らず命を  
吹き込まれてページから  
飛び出してくる」と称賛しています。  
ジョーを取り巻く人間関係も  
お楽しみに!

### エイミー・タンク

(Amy Tang)  
サンフランシスコ市警察警部補。小柄  
な中国系アメリカ人。会話は挨拶の  
言葉はいっさいなして単刀直入に用件  
に入る、弾丸のような女性。

### ケイブ・キンタナ

(Gabe Quintana)  
空軍州兵の降下救難隊員の頼れる男。  
愛娘ソフィと二人暮らし。ラストネーム  
をカタカナ表記するときに、一字間違  
えると……と、いっそキンタナにしよ  
うか悩みました。

### ファード・ビスマス

(Ferd Bismuth)  
ジョーの隣人。パソコン量販店に務め  
るオタク。クリンコンの友人多し。ジ  
ョーに健康上のアドバイスを求め、何  
かとジョーを追い回す。

### ミスター・ピーブルズ

(Mr. Peebles)  
猿。ファードが精神安定のために飼  
いはじめた“コンパニオン”。猿離れし  
たらすら次々としてかすが、時に  
それが役に立つことも!?

また本作にはエヴァン・ディレイニー  
シリーズのキャラクターが友情出演して  
います。さて、誰でしょうか?

## ポイント4

### トラウマとジレンマ

精神科医のくせに、といっは何だけど、ジョーは悶々と  
悩むことが多い。別シリーズのヒロイン、エヴァンは結婚と  
自分の生き方をめぐって煮え切らないでいるし、  
著者のメグ・ガーディナーはこういった人間くさい  
女性キャラを描くのが巧いかも。ジョーの“2大悶々”は次のとおり:

### 閉所恐怖症

幼いころ、サンフランシスコ大地  
震で瓦礫の下敷きになり狭い空間  
で救助を待った経験が。本人は救  
出されるも、このとき父親を亡くし  
ている。これがトラウマとなり、ジ  
ョーはいまでも閉所恐怖症でエレ  
ベーターが苦手。強制されない  
限り、階段を使う。

### 揺れ動くオンナ心

ジョーが引きずる暗い秘密。その秘  
密が生まれた日に居合わせたのが  
ケイブという、正義感に厚いバツイチ男。  
彼の魅力に惹かれながらも、ジョーは  
過去と現在とのジレンマに陥ってい  
る(女性の共感度大)。そしてどうにも  
やりきれなくなると、ジョーはロック  
ライミングをしにい(女性の共感度?)。

## ポイント5

### ジョーの生みの親メグ・ガーディナーの魅力

著者は自身の作品と同じようにテンポの早  
い会話を次々に繰り出す、りの良い女性。  
その魅力は、彼女のブログで存分に堪能で  
きる(www.meggardiner.com)。  
カリフォルニア州サンタバーバラ育ち。ス  
タンフォード・ロー・スクールを卒業して弁  
護士として働いた後、カリフォルニア大学サン  
タバーバラ校でクリエイティブ・ライティ  
ングを教える。結婚後、イギリスに渡り、現  
在もロンドン近郊に住んで執筆活動をする。  
デビュー作「チャイナ・レイク」がMWA(エ  
ドガー)賞を受賞。本書「心理検死官ジョ  
ー・ベケット」は2008年のアマゾンUSのエ  
ディター人気トップ10の一つに選出されて  
いる。最新刊はジョー・ベケットのシ  
リーズ3作目「THE LIAR'S LULLABY」。夫(メ  
グ・ガーディナー)が手掛けた、この作品のイ  
メージ曲ともいえる音楽をメグ・ガーディ  
ナーのHPで試聴できる。いま手掛けてい  
る新作では、ジョーとエヴァンのコラボレ  
ーションが見られるというから、乞うご期待。

